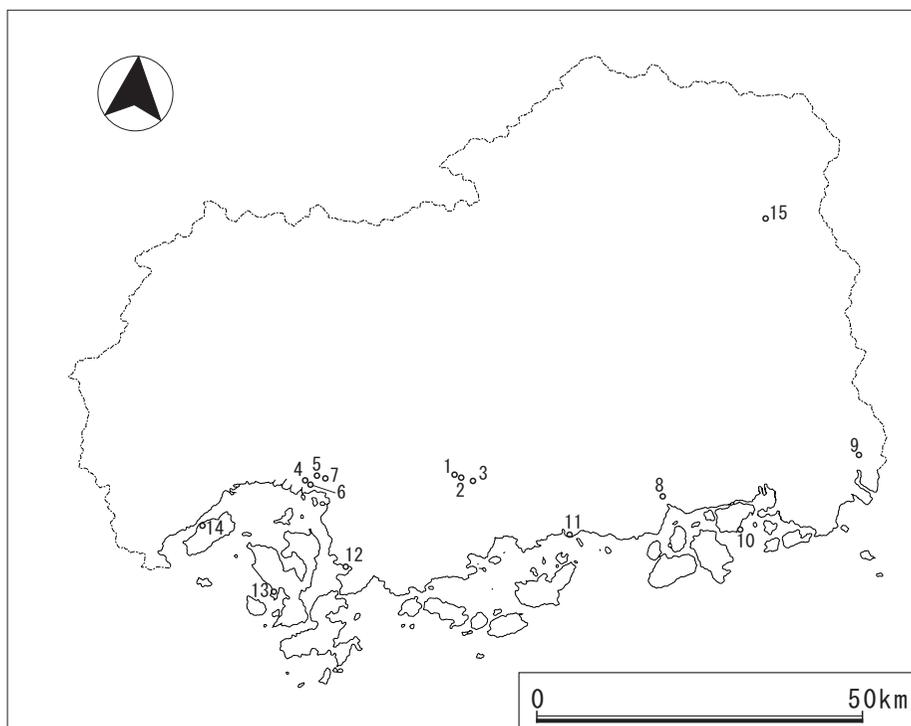


## 開発に伴う協議と立会・試掘調査の概要（2006年度）

### 1. はじめに

広島大学における開発に伴う埋蔵文化財の取り扱いは、1981年に広島大学内に統合移転地埋蔵文化財調査委員会が設置されて以降、統合移転地である東広島地区（団地）について、統合移転地埋蔵文化財調査委員会と統合移転実施計画委員会および施設部（統合移転が完了した1997年（平成9）4月以降は施設部）の協議が行われてきた。分布調査、試掘調査および立会調査や発掘調査による埋蔵文化財の確認・調査は統合移転地埋蔵文化財調査委員会に設置された調査室が担当した。また、発見された埋蔵文化財の最終的な取り扱いについては統合移転地埋蔵文化財調査委員会の審議を



第20図 広島大学の校地所在地位置図

1. 東広島地区 2. サイエンスパーク地区 3. 総合グラウンド地区 4. 東千田地区 5. 霞地区 6. 翠地区 7. 東雲地区  
8. 三原地区 9. 春日地区 10. 向島地区 11. 竹原地区 12. 呉地区 13. 沖美地区 14. 宮島地区 15. 帝釈地区.

経て決定される体制がとられた。その後、1999年（平成11）4月には統合移転地埋蔵文化財調査委員会は環境保全委員会に統合されたが、同委員会が引き続き東広島地区の開発に伴う埋蔵文化財の取り扱いについて協議および審議する機能を維持し、統合移転地埋蔵文化財調査委員会の実質的な機能および体制は継続された。

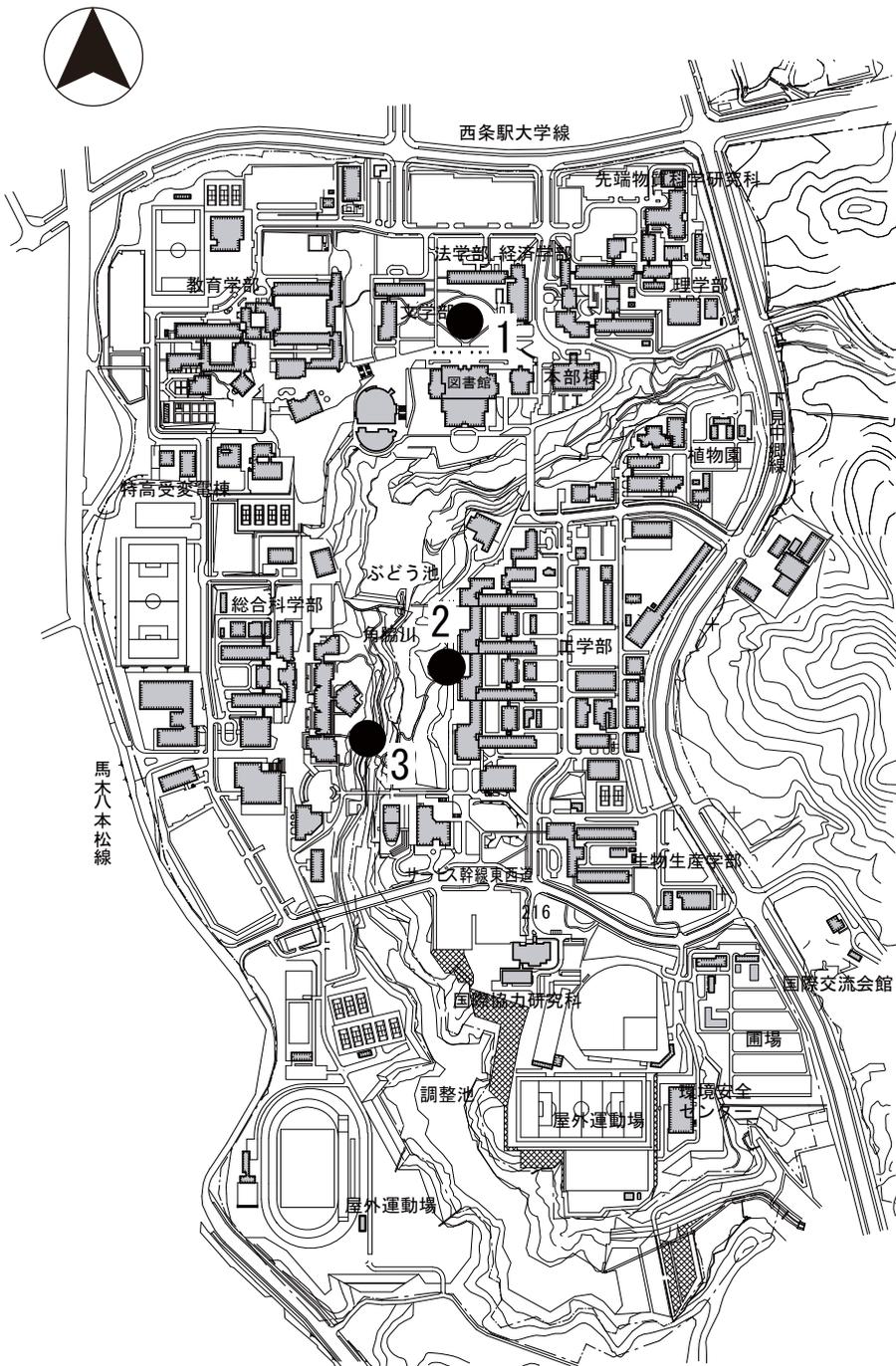
しかし、2004年（平成16）4月には国立大学が独立法人化され、広島大学では従来委員会がすべて廃止された。これに伴い、埋蔵文化財調査室は独立した組織として位置づけられ、財務担当副学長（2007年度（平成19）は医療・施設担当理事、2008年度（平成20）からは財務担当理事）が調査室長を兼任することとなった。一方、法人化に伴って広島大学内の開発に伴う埋蔵文化財については各自治体の教育委員会との間で協議が必要となり、これまで埋蔵文化財調査室の業務が東広島地区（統合移転地）内のみに限定されていたのを、広島大学構内すべてを対象とすることとなった。同時に、埋蔵文化財の協議の段階から埋蔵文化財調査室が一定の関与をし、各自治体の教育委員会と密接な連絡を行いながら埋蔵文化財調査室が埋蔵文化財に関わる立会い調査ならびに分布調査、試掘調査を実施する体制となった。

2004年度（平成16）・2005年度（平成17）については、体制の移行に伴って、大学当局と埋蔵文化財調査室の間で開発に伴う埋蔵文化財に関する協議について理解に齟齬があり、各自治体との間で実質的な協議が行われなかった。きわめて遺憾な状況であったが、2006年度（平成18）からは正常化し、各自治体と協議を行う体制が整った。

広島大学は、本部キャンパスの位置する東広島地区（東広島市）の他に、サイエンスパーク地区（東広島市、地域共同研究センター）、西条三永地区（東広島市、総合運動場・西条共同研修センター）、東千田地区（広島市、法学部・経済学部夜間コース他）、霞地区（広島市、医学部・附属病院他）、翠地区（広島市、附属学校）、東雲地区（広島市、附属学校）、竹原地区（竹原市、生物生産学部附属水産実験所）、三原地区（三原市、附属学校）、春日地区（福山市、附属学校）、呉地区（呉市、練習船基地）、宮島地区（廿日市市、大学院理学研究科附属宮島自然植物研究所）、沖美地区（江田島市、附属小学校臨海教育場）、向島地区（尾道市、大学院理学研究科附属臨界実験所）、帝釈地区（庄原市、大学院文学研究科帝釈峡遺跡群発掘調査室）の9市15ヶ所に校地が散在している（第20図）。2006年度（平成18）の協議事項は35件で、その内訳は東広島地区17件、霞地区8件、翠地区5件、東雲地区2件、竹原地区1件、三原地区2件、福山地区2件である（第8表）。大半は100㎡以下の小面積の開発である。協議35件中、試掘調査は2件、立会調査は18件である。試掘調査は東広島地

第8表 2006年度(平成18)広島大学における開発に伴う埋蔵文化財協議一覧

	開 発 事 業 名	対象面積 (m <sup>2</sup> )	協議時期	対応
東広島地区(東広島市)				
1	歯科診療所前の案内板設置	1.5	2006年10月	工事
2	カフェテリア建設	2360.0	2006年10月	試掘・立会
3	バイオマスエネルギーセンター実験装置設置工事に伴う電気配管工事(農場)	120.0	2006年10月	工事
4	理学部駐車場アスファルト舗装表層改修工事	845.0	2006年11月	工事
5	自然科学研究支援開発センター増設工事	16.5	2006年12月	工事
6	工学部記念植樹工事	0.8	2007年1月	工事
7	図書館前ほか看板設置工事	3.1	2007年1月	立会、工事
8	野球場防球ネット改修工事	12.3	2007年1月	工事
9	第1ゲート歩車道補修工事	60.5	2007年1月	工事
10	理学部西側車道給水管補修工事	80.0	2007年1月	工事
11	文学部駐輪場屋根設置工事	61.1	2007年1月	工事
12	文学部北側歩道等舗装補修工事	19.0	2007年1月	工事
13	農場保存地区遊歩道補修工事	659.0	2007年1月	工事
14	生物生産学部記念樹植樹工事	1.0	2007年2月	工事
15	工学部植栽植替工事、新期植樹工事	10.5	2007年2月	工事
16	生物生産学部附属農場消毒用水槽設置工事	46.0	2007年2月	工事
17	総合科学部駐車場昇降用屋根取付工事	2.0	2007年3月	工事
霞地区(広島市)				
1	浄化槽撤去工事	84.2	2006年11月	工事
2	医学部基礎研究棟玄関スロープ設置ならびに植栽移設工事	412.5	2006年11月	立会
3	外来診療棟西側庇設置工事	100.0	2006年11月	立会
4	外来診療棟北側庇設置工事	18.4	2006年11月	立会
5	保険管理センター建物基礎掘削工事	94.3	2007年1月	立会
6	保険管理センター電気配管工事	5.0	2007年1月	立会
7	保健管理センター排水管敷設工事	64.5	2007年1月	立会
8	植栽移植工事	3.0	2007年2月	立会
翠地区(広島市)				
1	アカシヤ会館排水管修理工事	3.6	2006年11月	立会
2	講堂東側受水層撤去工事	54.0	2007年1月	工事
3	講堂東側(研修館付近)給水管改修工事	17.5	2007年1月	立会
4	講堂西側(正門付近)給水管改修工事	18.0	2007年1月	立会
5	集会所給食堂周辺給水管改修工事	13.0	2007年1月	立会
東雲地区(広島市)				
1	附属東雲小学校耐震補強に伴う鉄筋ブレース基礎工事・ネットフェンス基礎工事	11.0	2006年11月	立会
2	附属東雲中学校屋外排水管改修工事	4.9	2006年11月	立会
竹原地区(竹原市)				
1	生物生産学部附属瀬戸内海圏フィールド科学教育センター耐震補強に伴う鉄筋ブレース基礎工事・ネットフェンス基礎工事ほか	9.3	2006年11月	立会
三原地区(三原市)				
1	附属三原小学校・中学校耐震補強に伴う鉄筋ブレース基礎工事・ネットフェンス基礎工事	27.7	2006年11月	試掘
春日地区(福山市)				
1	体育館南側雨水枡新設工事	6.9	2007年2月	立会
2	中高校舎A棟玄関スロープ取設工事	36.1	2007年2月	立会



第 21 図 2006 年度東広島地区の試掘・立会調査地点位置図

1. カフェテリア建設工事 2・3. 案内板設置工事

区1件、三原地区1件で、立会調査内訳は、東広島地区2件、霞地区7件、翠地区4件、東雲地区2件、竹原地区1件、福山地区2件である。

## 2. 試掘・立会調査の概要

次に、地区ごとに、試掘調査、立会調査の概要について述べてみたい。

### 東広島地区（東広島市）

#### 1) カフェテリア建設工事

所在地 東広島市鏡山1丁目2番1号

調査期間 2006年12月21日

2007年1月11日～15日

調査面積 2360㎡

調査概要 カフェテリア建設に伴って試掘調査および立会調査を実施した。調査は旧地形が残されている可能性がある建物建設部分および電気配線工事部分を中心に行った。調査全域について地表下約1mまで調査した。調査範囲はすべて造成に伴う

盛り土であり、旧地形は認められなかった。遺物も全く出土しなかった。

#### 2) 案内板設置工事

所在地 東広島市鏡山1丁目2番2号ほか

調査期間 2006年2月27日

調査面積 約3㎡

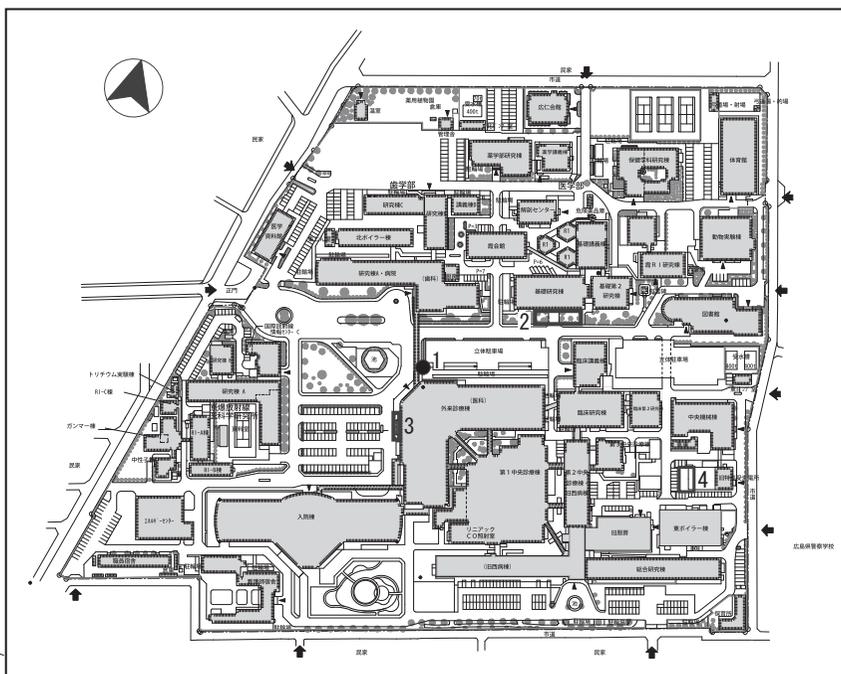
調査概要 東広島地区内のアカデミック地区10ヶ所に案内板を設置する工事に伴い、立会調査を実施した。調査は、開発予定地10ヶ所のうち旧地形が残されている可能性のある工学部第1類西側歩道脇と総合科学部講義棟東側の門脇川沿いの遊歩道脇の2ヶ所について行った。工学部第1類西側歩道脇では旧地形がすでに削平されていると判断され、遺構、遺物とも発見されなかった。総合科学部講義棟東側角脇川沿



写真5 東広島地区カフェテリア建設工事電気配管地区試掘状況



写真6 東広島地区カフェテリア建設工事基礎掘り方掘削状況



第 22 図 2006 年度震地区の立会調査地点位置図

1. 大学病院診療棟北側庇設置工事 2. 医学部基礎研究棟玄関スロープ設置ならびに植栽移設工事 3. 大学病院外来診療棟西側庇設置工事 4. 保健管理センター建設工事

いでは旧地形が残されており、第 1 層：表土層、第 2 層：暗黄褐色砂質土（小礫を多数含む）、第 3 層：黄褐色粘質土の順で堆積土が認められたが、遺構・遺物は発見されなかった。

#### 震地区（広島市）

##### 1) 大学病院外来診療棟北側（駐車場通路）庇設置工事

所在地 広島市南区霞 1 丁目 2 番 3 号

調査期間 2007 年 1 月 18・19 日

調査面積 18.38㎡

調査概要 庇設置に伴う掘削のため立会調査を行った。東西 6 m、南北 3.5 m の掘削予定範囲を西側約 3 m と東側約 2 m の二つの調査区に区分して行った。東半部、西半部の調査区とも全体を約 65cm まで掘り下げ、東半部については調査区の北半部を、西半部については調査区南西部の一角を約 1 m の深さまで調査した。基本層序は以下

の通りである。

第1層：アスファルトおよびアスファルト基礎。約1cm。

第2層：砂礫混じりの暗黄褐色土。

第3層：暗褐色砂質土（やや粘性あり）。

第4層：暗黄灰褐色砂質土。

第2層は外来診療棟・駐車場などの建設に伴う整地土と思われる。第3・4層は駐車場の基礎根切（掘り方）埋土と推定される。



写真7 霞地区大学病院外来診療棟北側庇設置工事地区検出の枿

東半部の調査区では、南西隅でコンクリート枿の一部が検出された（写真7左上方）。枿内に瓦、煉瓦などの破片が充填されていた。旧陸軍広島兵器支廠関連の施設の一部の可能性がある。

## 2) 医学部基礎研究棟玄関スロープ設置ならびに植栽移設工事

所在地 広島市南区霞1丁目2番3号

調査期間 2007年1月29日（基礎研究棟玄関スロープ設置）

2007年2月13日（植栽移設）

調査面積 352.5㎡

調査概要 スロープ基礎設置およびスロープ設置場所の既存植栽の移設に伴って掘削を行うため、立会調査を行った。

基礎研究棟玄関スロープ設置 調査は、スロープ基礎部分（東西5.8m、南北3.15m、深さ5cm）を対象として行った。第1層表土層、第2層橙褐色土および暗褐色砂質土（45～50cm）、第3層暗灰褐色砂質土の順で堆積していた。第2層は埋土（造園土）と思われる。第3層は後述の植栽移植先第3層と同一層と推定され、調査区周辺に広く堆積しているものと思われる。調査区内では、遺構、遺物ともに発見されなかった。なお、植栽抜き取り部分はすべて整地土（造園土）であった。

植栽移植 植栽の移植は合計6本であり、各移設穴は東西2m、南北1.5m、深さ約1.3mの規模である。基本層序はスロープ基礎部分と同様であり、第1層表土層、第2層暗褐色砂質土（約40cm、整地土）、第3層暗灰褐色土層（約60cm）、第4層暗赤褐色土層である。暗灰褐色土層の最下層付近でヒューム管、U字溝とその蓋が見つか

り、また瓦、煉瓦、礫が多く出土した。第4層は多くの砂を含み、締まりはない。また混入物も見られなかった。さらに50cmほど下層へ部分的に深掘を行い、第4層の堆積が続いていることを確認した。遺構、遺物とも発見されなかった。

### 3) 大学病院外来診療棟西側（玄関通路）庇設置工事

所在地 広島市南区霞一丁目2番3号

調査期間 2007年2月6日

調査面積 100㎡

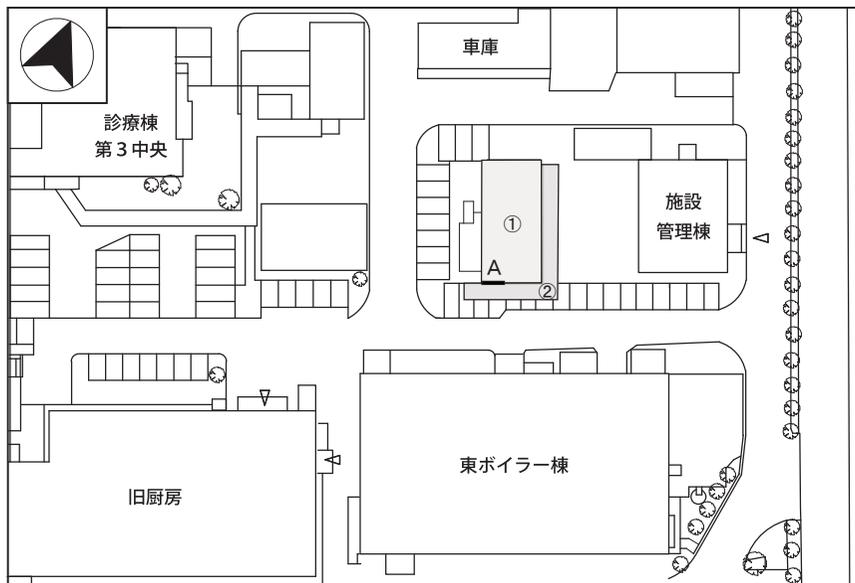
調査概要 庇基礎設置に伴う掘削のため立会調査を実施した。掘削予定範囲全体を深さ約1.5mまで掘り下げ、部分的に土層確認などのため最大深さ2mまで掘削した。基本層序は以下の通りである。

1層：褐色土。軟質である。砂利などを多く含む。約10cm。

2層：淡黄褐色土。緻密だが軟質で、粘性もある。約20cm。

3層：赤褐色砂質土。軟質で、水分を多く含む。砂利、レンガ片などを含む。約50cm。

4層：灰色砂質土。水分を多く含み粘性がある。均質である。わずかに貝片を含む。約70cm。



第23図 2006年度保健管理センター基礎・排水管掘り方・検出遺構位置図（1：1000）

①保健管理センター基礎掘り方 ②排水管掘り方 A.石垣状遺構

5層：黄褐色砂質土。基本的には4層と同質である。ただし、粘度が若干高い。

1・2層は外来診療棟建設もしくは増設時の根切（基礎掘り方）埋土および整地土である。3層は、外来診療棟建設以前の整地土と思われるが、形成時期は不明である。4層より湧水した。5層は地表下2mまで確認したが、下限は不明である。4層以下は自然堆積層で、海成層あるいは海成層の再堆積層と思われる。調査区内では、遺構、遺物は発見されなかった。

#### 4) 霞地区保健管理センター建設工事

所在地 広島市南区霞1丁目2番3号

調査期間 2007年2月9日（保健管理センター建物基礎）

2007年2月26日（電気  
線路溝敷設）

2007年3月12日（排水  
管敷設）

調査面積 208㎡

調査概要 保健管理センターの新築に伴って立会調査を実施した。ここでは関連の保健管理センターの建物基礎工事、配電線管敷設工事、排水管溝敷設工事3件についてまとめて報告する。

保健管理センター建物基礎（第23図①）全域について地表下45cmまで行い、外周部幅1.2mを中心に最大60cmの深さまで調査した。基本層序は、第1層：表土、第2層：砂礫混じり暗褐色砂質土、第3層：礫層（旧地表か）、第4層：暗褐色土層である。第2・4層は、瓦、煉瓦、礫、コンクリートを含んでおり、整地層と思われる。建物基礎掘り方の南端部西半で切石を東西に直線的に並べた石垣状遺構



写真8 霞地区保健管理センター建物基礎掘り方南端検出の石垣状遺構

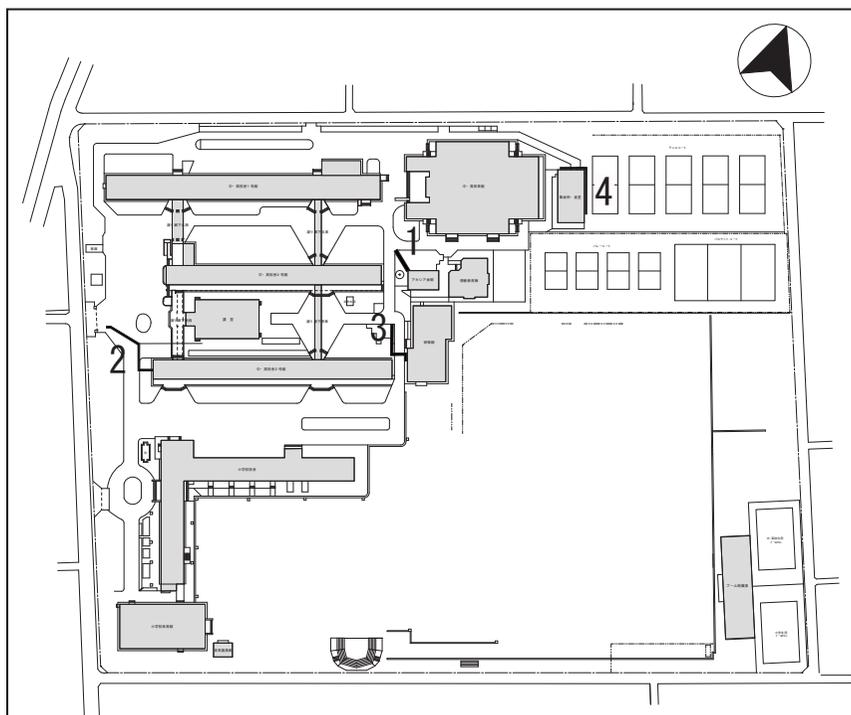


写真9 霞地区保健管理センター排水管設置掘り方の堆積状況（北壁）

を検出した（写真8）。表層土から切石の上面は表層土から深さ約50cmで、掘り方西南端から東西約3.5mの範囲に連続して残されている。掘り方の端であり、掘り方底部からわずかに上部へ覗いている程度であるため、上面を検出したのみで本格的な調査は行わなかった。そのため遺構の規模や構成切石の規模や形状を明らかにしていないが、切石は幅50cm前後の直方体状の形態で、各面は粗く平坦に仕上げている程度である。第1層はここ10年以内の整地土であることから、現在霞地区の大半の建物が建築され、全体に40～50cmの表層土かさ上げが行われた1960～1970年代以降の地表は第2層上面と思われる。したがって、石垣状遺構は基本的には現地表から約30～40cmの深さに位置していると言える。おそらく、霞地区が本格的に再開発を開始した1965年以前の構築物であると考えられ、旧広島兵器支廠に関連した遺構の可能性はある。性格については不明であるが、今回の一連の工事で本掘り方の南側隣接地を排水管敷設に伴って掘削した際には同様の遺構は確認できなかった。本掘り方との間に約1mの間隔があるが、南側で切石が確認できなかったことからすると、少なくとも石敷きなどの施設ではないと言える。建物敷地端の石垣や通路の縁石などの可能性が推定される。

配電線管敷設 現地地表下50cm～1.5mの深さまで配管設置掘り方の傾斜に応じて行った。調査範囲内の旧地形はすべて削平されていた。

排水管敷設（第23図②） 全域を地表下約1mの深さまで掘り下げ、西端部約3mについては深さ約1.2mまで調査した。調査対象地は道路・駐車場として利用されており、基本層序は以下の通りである。第1層：アスファルトおよびアスファルト基礎（25cm前後）、第2層：暗褐色砂礫層（約30cm）、第3層：灰褐色砂質土層、第4層：淡黄褐色砂礫土（小礫混じり、約60cm）、第5層：淡黄褐色砂質土～砂層である。第2層には煉瓦、灰色瓦、ガラスなどが含まれており、近代以降の整地土と判断される。第3層はやや粘性があり、しまりがある。第4層は粒子の粗い砂質土に礫が混じる土層で、造成土と思われる。第5層は調査区西端部の共同溝近くで確認したもので、上面は地表下1～1.2mの深さにある。第3層、第4層は兵器支廠造成の際の造成土の可能性があり、特に第4層は堆積層単位の認識が比較的容易にできる。第2層は堆積状態から見て、建物等の構築物を撤去した際に整地したような様子を示しており、1965年以降の再開発に伴う整地土層の可能性が高い。また、保健管理センター建物基礎掘り方南端で検出した石垣状遺構は本調査区の第3層に対応するものと思われる、遺構上面は本調査区第2層下面付近にあるものと推定される。



第 24 図 2006 年度翠地区立会調査地点位置図 (1 : 1500)

1. アカシヤ会館排水処理工事 2～4 給水管改修工事 (2. 講堂西側地区、3. 研修館西側地区、4. 集会所食堂周辺地区)

すべての調査区内では、近世以前の遺構、遺物は発見されなかった。

#### 翠地区 (広島市)

##### 1) 附属学校部アカシヤ会館排水処理工事

所在地 広島市南区翠 1 丁目 1 番 1 号

調査期間 2006 年 12 月 22 日

調査面積 約 3.6㎡

調査概要 附属学校部アカシヤ会館北西部の雨水排水管交換に伴い、立会調査を行った。調査区内はすべて盛土と判断され、遺構、遺物ともに発見されなかった。

##### 2) 附属学校部給水管改修工事

所在地 広島市南区翠一丁目 1 番 1 号

調査期間 2007 年 2 月 27 日 研修館西側 (講堂東側) 給水管改修工事

2007 年 2 月 28 日 講堂西側 (正面ゲート付近) 給水管改修工事

2007 年 3 月 9 日 集会所食堂周辺給水管改修工事

調査面積 約 102m<sup>2</sup>

調査概要 附属学校部の給水管改修工事に伴って新たに3ヶ所の掘削を行うため、立会調査を実施した。

研修館西側給水管改修工事 講堂東側にあたり、研修館から中庭にかけての長さ36m、幅50cmの規模で掘削した。研修館から道路部分（南地区）については深さ約85cm、中高舎3号館北側の道路沿いの部分（東地区）および中庭の東西配管部分（北地区）については深さ約50cmまで掘削した。南地区道路部分は、第1層：アスファルトおよび基礎土、第2層：橙褐色土（マサ土状）、第3層：浅黄褐色粘質土の順で堆積層が認められた。第2・3層は旧制広島高等学校の造成基礎層の可能性ある。東区および北区は第1層：表土層またはブロック敷き・基礎土、第2層：礫混じり灰黒色土、第3層：黄褐色粘質土、第4層：淡黄褐色砂質土の順で堆積

していた。遺構、遺物ともに発見されなかったが、第3・4層は旧制広島高等学校期の整地層の可能性もある。

講堂西側給水管改修工事 講堂西側の正面ゲート付近にあたる。掘削は長さ35m、幅50cmの規模であり、正門に近い地区（北地区）、守衛所の東側付近（中央地区）、中高校舎3号館西側（南地区）の3地区に区分して行った。北地区では概ね地表下80cmまで掘削し、給水管本管と接続する北端部および南部については約1.2mまで掘削した。中央地区では地表下約1mまで、南区では地表下約60cmまで調査した。

北地区および中央区は全域にアスファルト舗装がなされており、アスファルト下は道路基礎土が15～20cmの厚さで堆積していた。北地区は北端部から約3m付近ま



写真10 翠地区講堂東側給水管改修工事（正面ゲート付近）配管掘り方堆積状況（西壁）

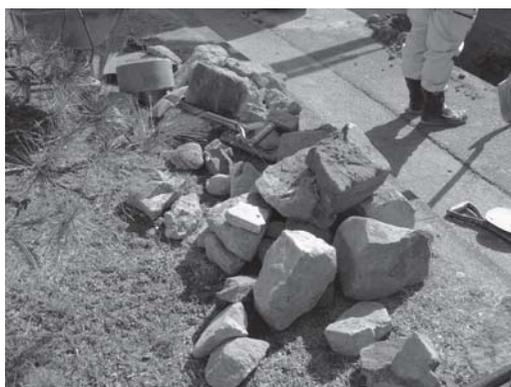


写真11 翠地区講堂東側給水管改修工事（正面ゲート付近）調査区出土石材（花崗岩）

で煉瓦片・瓦片・礫混じりの暗黄褐色砂質土が堆積していたが、それより南側では橙褐色粘質土がほぼ全域で確認された。北端部から約3m付近の暗褐色土との境界付近では橙褐色粘質土上面は30～40度程度の傾斜を持っており、これに近接する暗褐色土中からは30～50cm大の角礫が比較的まとまって出土した。暗褐色土との境界から南側へ約10mの間は非常に固く締まった粘土混じりの橙褐色土で、50cm程度の厚さが認められた(写真10)。この非常に固く締まった橙褐色土の南側約3mの間は橙褐色土が途切れていたが、その南の中央地区では再び道路基礎土の下層には橙褐色土の堆積がほぼ全域で認められた。この部分の橙褐色土は砂質分が強く、やや締まりが悪いが、30～50cm程度の厚さを有している。北区および中央区で検出された橙褐色粘質土層は旧制広島高等学校に関連した堆積物である可能性があり、建物基礎や敷地の造成基礎土などの可能性がある。

南区は北地区、中央地区とかなり堆積状態が異なっており、現代の校舎基礎の根切り埋土や戦後の堆積層もしくは整地土と判断される。南・北地区では人為的加工されたと思われる花崗岩角礫が多数出土したが、明確な構築物は確認できなかった。石垣などの構築材と思われる。

集会所食堂周辺給水管改修工事 集会所食堂北面および東面沿い隣接地で、長さ26m、幅50cmの規模で、深さは全域約40cmまで掘削した(給水本管との接続部分のみ深さ約60cmまで掘削した)。地表下約30cmまでは現代の整地土(盛り土)であり、その下層は暗褐色砂質土が堆積していた。調査区内からは遺構、遺物ともに発見されなかった。

### 東雲地区(広島市)

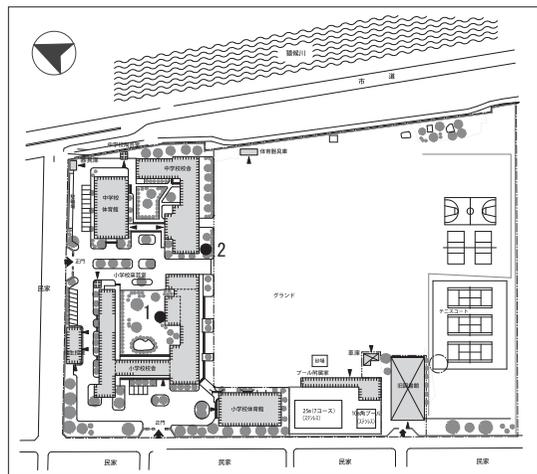
1) 附属学校部小学校耐震補強に伴う鉄筋部ブレース基礎工事・ネットフェンス基礎工事ほか

所在地 広島市南区東雲3丁目  
1番33号

調査期間 2006年12月22日

調査面積 11m<sup>2</sup>

調査概要 耐震補強用鉄筋スレー



第25図 2006年度東雲地区立会調査地点位置図(1:4000)

1. 小学校耐震補強工事 2. 中学校屋外排水管改修工事

ブ設置に伴う掘削のため立会調査を実施した。基礎設置のための掘削規模は、東西約6m、南北1.3m、深さ65cmである。アスファルト下は現在の建物の根切(基礎掘り方)埋土と判断され、遺構、遺物ともに発見されなかった。

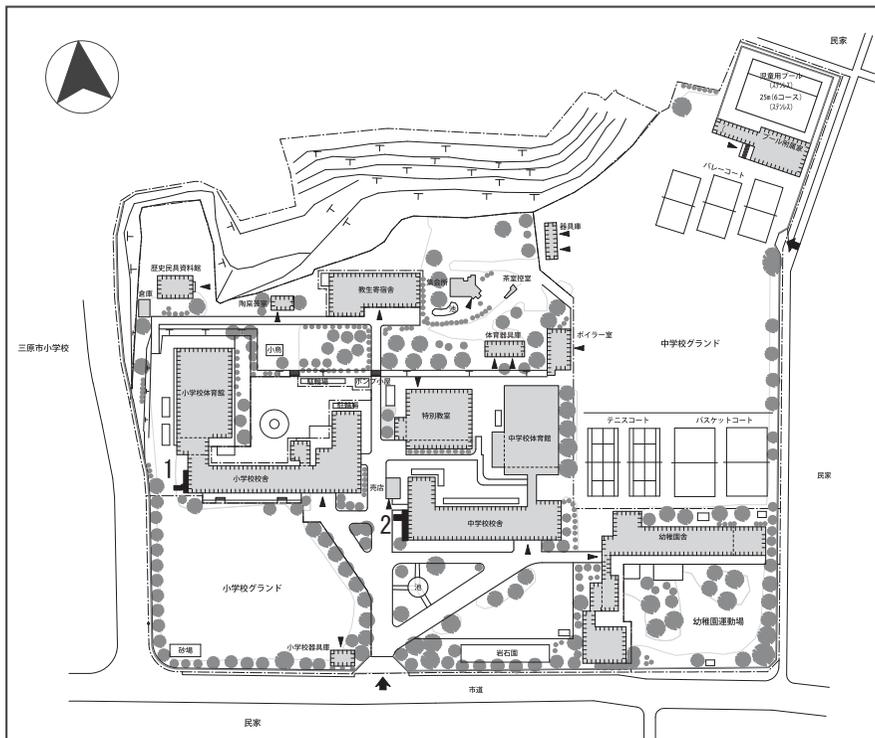
## 2) 附属学校部中学校屋外排水管改修工事

所在地 広島市南区東雲3丁目1番33号

調査期間 2006年12月22日

調査面積 4.86㎡

調査概要 中学校校舎南側の排水管交換に伴う掘削のため立会調査を行った。掘削規模は、長さ7.6m、幅60cm、深さ40cmである。第1層：表土層(暗褐色砂質土)、第2層：黄褐色砂質土の順で堆積を確認した。遺構、遺物ともに発見されなかった。



第26図 2006年度三原地区試掘調査地点位置図(1:2500)

1. 小学校耐震補強工事地区 2. 中学校耐震補強工事地区

## 竹原地区（竹原市）

1) 生物圏科学研究科附属瀬戸内海圏フィールド科学教育センター耐震補強に伴う鉄筋部基礎レス工事・ネットフェンス基礎工事ほか

所在地 竹原市港町5丁目8番1号

調査期間 2007年2月5日

調査面積 9.3㎡

調査概要 センター棟の耐震補強のための鉄筋プレス基礎ほかの設置に伴う掘削のため立会調査を行った。掘削は東西6.2m、南北70cm、深さ70cmの規模で、すべて現在の建物の根切り(基礎掘り方)埋土であった。遺構、遺物ともに発見されなかった。



写真12 三原地区小学校耐震工事地区試掘区完掘状況

## 三原地区（三原市）

1) 附属小学校・中学校耐震補強に伴う鉄筋部基礎プレス工事・ネットフェンス基礎工事ほか

所在地 三原市館町2丁目6番1号

調査期間 2006年12月25日

調査面積 37.3㎡

調査概要 耐震補強に伴う鉄筋基礎プレス工事およびネットフェンス基礎工事に伴う掘削のため試掘調査を行った。

小学校耐震補強工事地区 西壁沿いの鉄筋プレス基礎部分を中心に調査を行った。基礎設置部分の南北約10m、東西1.5mについては給排水管などが敷設されており、地表下約30cm程度までしか調査できなかった

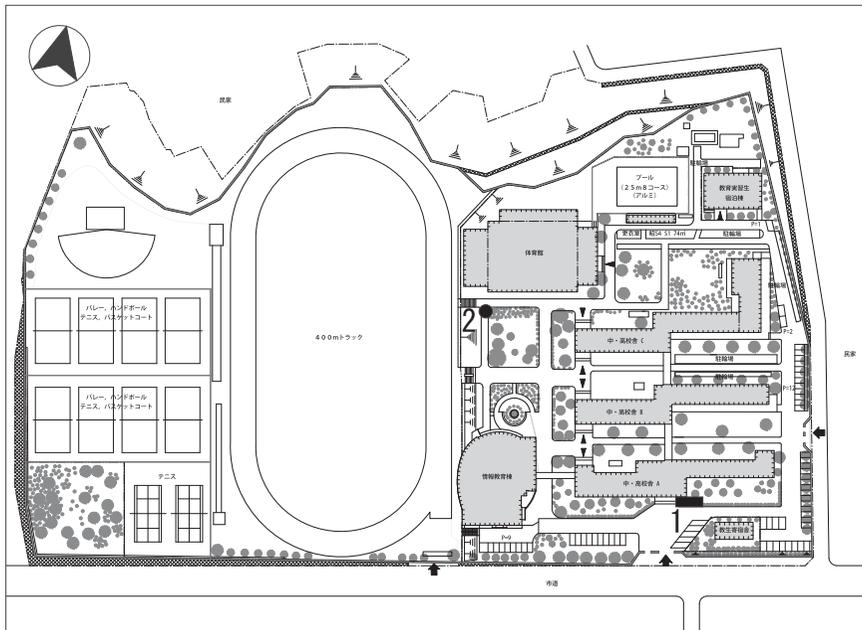


写真13 三原地区中学校耐震工事地区試掘区完掘状況

ことから、調査区南端部の約2mを西側へ約3.5m拡張した。拡張部分についても旧校舎の基礎があり、拡張区北側約50cmについて80cmまで調査した。堆積層は、第1層：表土層（厚さ5～10cm）、第2層：旧校舎基礎掘り方（根切）埋土・排水管理積土、第3層：赤褐色土（自然堆積層）の順で、工事掘削予定の地表下50cmまではすべて近年の建物・配管に伴う埋積土であった。遺構、遺物とも発見されなかった。

中学校耐震補強工事地区 西壁沿いの鉄筋ブレス基礎部分を中心に調査した。基礎設置部分の南北約9m、東西1.5mのうち、北半部は給排水管などが敷設されており、地表下約30cm程度までしか調査できなかったため、北端部約1.2mを西へ約1.5m拡張した。調査区内は給排水管などの敷設によりかなりの範囲が地表下60～80cm程度まで削平されていたが、以下のような基本層序を確認した。上層より、第1層：表土層、第2層：黄褐色砂質土、第3層：黄褐色砂礫土、第4層：暗褐色粘質土、第5層：暗灰褐色粘質土である。

第2・3層は近代以降の整地土層と判断され、瓦片、煉瓦片などが出土した。第4・5層は堆積時期は不明であるが、瓦片、煉瓦片などが出土し、上層に比較して礫の包含が非常に少なかった。遺構、遺物ともに発見されなかった。



第27図 2006年度春日地区立会調査地点位置図（1：3000）

1. 教室棟A玄関スロープ取付工事 2. 体育館南側雨水枡および排水溝新設工事区

## 春日地区（福山市）

### 1) 教室棟A玄関スロープ取付工事

所在地 福山市春日町5丁目14番1号

調査期間 2007年2月26日

調査面積 36.1㎡

調査概要 教室棟A棟玄関東側のスロープ基礎工事に伴う掘削のため立会調査を行った。掘削部の堆積層はすべて近年の埋積土と判断され、遺構、遺物は発見されなかった。

### 2) 体育館南側雨水柵および排水溝新設工事

所在地 福山市春日町5丁目14番1号

調査期間 2007年3月2日

調査面積 6.9㎡

調査概要 体育館南側の排水溝などの設置工事に伴う掘削工事のため、立会調査を実施した。掘削部の堆積層はすべて近年の埋積土と判断され、遺構、遺物は発見されなかった。

## 3. 終わりに

最後に、2006年度（平成18）の試掘・立会調査についてまとめておきたい。

東広島地区では、試掘調査1件、立会調査2件を行ったが、遺物、遺構とも発見されなかった。試掘調査を行ったカフェテリア建設予定地は旧地形の残存の可能性があったが、調査範囲内ではすべて旧地形の削平あるいは盛土と判断された。

広島市霞地区では7件の立会調査を行った。本地区は旧陸軍広島兵器支廠の所在地である。大学病院外来診療棟北側庇設置工事でコンクリート柵を、保健管理センター建物基礎掘り方西南端で石垣状遺構を検出した。前者は施設の一部であること、後者については上面を検出したのみで、その規模も確認できなかったことから性格については明らかにできないが、旧陸軍兵器廠に関連した遺構である可能性がある。保健管理センター建物南側隣接地の排水管掘り方では旧陸軍広島兵器支廠造成の際の造成・整地土の可能性のある堆積層を確認した。今回の調査成果からすると、現地表面下50cm前後までは1965年頃から始まる再開発に伴う整地土、盛土などと推定される。数枚の堆積層が識別される場所もあり、下層を中心に煉瓦、瓦などの破片が包含されていた。ところで、霞地区一帯は江戸中期までは海であったと推定され、その後の人

為的な埋め立てによって陸化したとされているが、その時期を推定する資料となる海成層について今回の調査では明確にすることができなかった。なお、近世以前の遺構、遺物についてはいずれの地区でも検出されなかった。

広島市翠地区では4件の立会調査を行った。本地区は旧制広島高等学校の所在地である。講堂西側（正面ゲート付近）給水管改修工事地区では、建物基礎の可能性のある粘土混じりの硬化面を検出した。旧制高校に関連した遺構かもしれない。本地区および研修館西側給水管改修工事地区では、地表下20～50cmより下層で厚さ50cm前後の橙褐色粘質土、砂質土の堆積を確認した。旧制高校造成の際の造成土・盛土などの可能性があるが、調査範囲が狭く、今後の調査の中でさらに検討したい。また、講堂西側給水管改修工事地区では人頭大の花崗岩角礫が相当数出土した。人為的に加工されたものと思われるが、構築物としては確認できなかったことから、附属学校建設以前の施設を解体し造成を行った際に整地土とともに埋積したものと推定される。

広島市東雲地区では2件の立会調査を行った。本地区は旧制広島師範学校の所在地である。いずれの地区でも遺構、遺物とも発見されなかった。また、本地区も海の人為的な埋立地であるが、今回の調査では海成層は確認できなかった。

三原地区では2件の試掘調査を行った。本地区は近世三原城跡の北側隣接地であり、城下（武家屋敷）にあたる。何らかの遺構、遺物の検出が期待されたが、両調査区ともすでに建物基礎や配管敷設などによって掘削予定深度までは削平されており、遺構、遺物ともに検出されなかった。

この他に、竹原地区で1件、春日地区で2件の立会調査を行ったが、いずれの調査区でも、遺構、遺物は発見されなかった。また、春日地区では造成前の旧地形を示す地形図と造成図を確認した。これによると、現在の敷地の大半は旧地形が大きく削平を受けており、埋め立てを行った谷部分と敷地縁辺の斜面部を除くと、埋蔵文化財と残されている可能性はきわめて低いものと推定された。

（藤野次史）